

青梅市文化財ニュース

第 1 0 4 号

平成 8 年 6 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

多摩地方の温泉情報

温泉ブームが続いている。この数年の、新聞などの報道によって得られた情報を整理してみよう。

多摩川上流の小菅村では、1992（平成 4）年 9 月に、1200m の深さから 31℃ のアルカリ性の温泉が湧出した。同村では「多摩川源流小菅の湯」と命名し、村の活性化に役立てようと、宿泊が出来るような大規模な施設を建築して客の誘致をはかっている。

丹波山村では、1996（平成 8）年 4 年に、掘削によって約 1500m の深さから、45℃ の炭酸水素塩泉系の温泉を湧出させた。

奥多摩町では、1957（昭和 32）年に小河内ダムの完成によって水没した鶴ノ湯を復活させようと、1990（平成 3）年から温泉の利用者を推進している。この年の秋から温泉祭を実施し、以降、周辺の旅館や民宿にタンクローリ車で配湯し、「奥多摩温泉郷」として地域の活性化に役立てている。また、1985（昭和 60）年頃、新氷川トンネルの掘削工事に伴って、23℃ 前後の温泉が湧出した。町当局は、町起こしに役立てようと計画している。

檜原村で、南秋川上流の数場に蛇ノ湯と称する温泉が知られている。村では地域の活性化の一助にしようと、そこから南東にあたる所で、1992（平成 5）年から掘削工事を行った結果、1200m の深さからアルカリ性の温泉を湧出させた。その後、村では温泉センターを建設し、1996（平成 8）年 6 月から観光客を誘致している。

日の出町では、三ッ沢で 1993（平成 5）年から温泉の掘削工事を行い、約 1500m の深さからアルカリ性で、27℃ の温泉を湧出させた。町では「ひので三ッ沢つるつる温泉」と命名し、温泉センターを建設している。

1994（平成 6）年 5 月に、八王子市上柚木では、掘削工事の結果、約 1300m の深さから 41℃ の弱食塩泉の温泉を湧出させた。「八王子温泉・福福の湯」と命名され、1995 年 5 月から営業されている。

1995（平成 7）年 11 月、日野市程久保の多摩テックでは、45℃ で、弱アルカリ性の温泉が湧出した。同施設では、開発許可を都に申請している。

武蔵村山市では、狭山丘陵の麓にあたる岸地区で、温泉探査のための地質調査をコンサルタ

ントに委託した。その結果、1996（平成8）年2月に「可能性あり」の報告を受けている。

このように、最近の多摩地方は“温泉ブーム”である。青梅市内にも、かつては御岳地区の3ヶ所を始めとし、長淵・成木川流域に4ヶ所・岩蔵といった地区で、温泉が知られていた。現在、利用されているのは岩蔵温泉だけで、そこには4軒の旅館が営業を行っている。

（文責 角田）

＊ 青梅市郷土博物館の催し

特別展『多摩川とその流域の自然－青梅市－』

市内の地形、地質や身近にみられる動・植物を紹介します。

7月2日から10月10日まで

月曜日休館（9月23日（祝）開館、24日（火）は休館） 入館無料